平成２７年度精神科在院患者調査の概要【速報版】

1. 在院患者の状況

平成27年6月30日時点における在院患者総数は16,611人となっており、昨年度調査と比較すると282人減少している。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ■在院患者数の推移 | | | | | |
| 年度 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
| 在院患者数 | 17,613 | 17,489 | 17,161 | 16,893 | 16,611 |
| 前年度との差 | --- | ▲124 | ▲328 | ▲268 | ▲282 |
| 病床数 | 19,564 | 19,564 | 19,489 | 19,489 | 18,894 |
| 前年度との差 | --- | --- | ▲75 | --- | ▲595 |
| 充足率 | 90.0% | 89.4% | 88.1% | 86.7% | 87.9% |

『年齢区分』では、60歳以上が在院患者総数の63.1％を占めている。

『入院形態区分』では、「医療保護入院（50.4％）」が最も多く、「任意入院（49.0％）」と合わせると在院患者総数の99.4％を占めている。

『疾患名区分』では、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害（F2）」が最も多いが、在院患者数は年々減少しており、昨年度調査と比較すると282人減少している。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ■疾患名区分別在院患者数の推移 | | | | | |
| 年度 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
| 症状性を含む器質性精神障害（F0） | 3,884 | 3,811 | 3,818 | 3,760 | 3,765 |
| 精神作用物質使用による精神及び行動の障害（F1） | 1,009 | 1,001 | 1,059 | 1,086 | 1,034 |
| 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害（F2） | 10,079 | 9,673 | 9,520 | 9,376 | 9,111 |
| 気分（感情）障害（F3） | 1,573 | 1,647 | 1,572 | 1,584 | 1,628 |
| 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（F4） | 272 | 284 | 272 | 269 | 287 |
| 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群（F5） | 60 | 72 | 43 | 49 | 62 |
| 成人の人格及び行動の障害（F6） | 65 | 67 | 67 | 45 | 49 |
| 精神遅滞（F7） | 378 | 609 | 471 | 391 | 372 |
| 心理的発達の障害（F8） | 66 | 83 | 90 | 117 | 112 |
| 小児期及び青年期の通常発症する行動及び 情緒の障害及び特定不能の精神障害（F9） | 43 | 26 | 41 | 26 | 34 |
| てんかん（症状性を含む器質性障害(F0)に属さないもの） | 93 | 101 | 87 | 77 | 64 |
| その他 | 91 | 115 | 121 | 113 | 93 |
| 総計 | 17,613 | 17,489 | 17,161 | 16,893 | 16,611 |

『在院期間区分』では、在院1年以上の長期在院患者数は年々減少しており、昨年度調査と比較すると112人減少している。

『状態像区分』では、軽度・中等度群が9,703人（58.4％）、重度・最重度群が4,731人（28.5％）、寛解・院内寛解群が2,177人（13.1％）となっている。

1. 地域移行支援の必要性（可能性）

寛解・院内寛解群2,177人のうち、地域移行支援の利用が「可能（必要）」と回答があった方は566人であった。

『年齢区分』をみると、「60歳代」が128人（総数の22.6％）と最も多く、「50歳代」が107人（総数の18.9％）、「40歳代」が97人（総数の17.1％）となっており、60歳以上は総数の52.1％を占めている。

『在院期間区分』をみると、在院1年未満が266人（総数の47.0％）、在院1年以上は300人（総数の53.0％）となっており、60歳以上かつ在院1年以上の方は173人（総数の30.6％）となっている。

『疾患名区分』をみると、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害（F2）」が287人（総数の50.7％）と最も多く、「症状性を含む器質性精神障害（F0）」が96人（総数の17.0％）、「気分（感情）障害（F3）」が80人（総数の14.1％）と続いている。

1. 退院阻害要因

寛解・院内寛解群2,177人のうち、「退院阻害要因がある」在院患者は1,145人（総数の52.6％）であった。

『退院阻害要因』を年齢階層別にみると、60歳未満では「現実認識が乏しい」が最も多く、「病状が不安定」、「退院による環境変化への不安が強い」の順であり、60歳以上では、「退院意欲が乏しい」が最も多く、「退院による環境変化への不安が強い」、「現実認識が乏しい」の順となっている。

『退院阻害要因』を在院期間別にみると、「病識がなく通院服薬の中断が予測される」、「退院意欲が乏しい」、「退院による環境変化への不安が強い」、「援助者との対人関係がもてない」、「家族から退院に反対がある」の回答が在院期間が長いほど高くなっている。



